

関口 進先生を弔う

片桐 一

日本組織適合性学会会長、旭川医科大学、病理学第2

故関口進先生に最初にお会いしたのは、先生が川崎市立井田病院の臨床研究検査部長を務めているとき（昭和50年代前半）でした。カナダトロント大学付属病院にHLAタイピング研究室を創設された先生として紹介され、それ以来何かとHLAについての研究促進の相談にのっていただきました。そして現在の日本組織適合性学会の前身である研究会の時代から研究会の運営、発展に多くの貢献をされました。昭和53年には、先生が京都で第12回日本組織適合性研究会を主催し、B細胞抗原タイピングの方法、B細胞の分離方法等を熱心に話されました。

札幌で開催された第3回アジア・オセアニア組織適合性ワークショップ・カンファランス（昭和61年6月）では、相沢幹会長を助けて副会長として身労を惜しまず活躍され、会を成功裏に導かれました。それまでの研究会を改組し、日本組織適合性学会（平成4年）を発足させるに当たり、数々の貴重な御意見を述べられ、今日の学会の基盤作りに貢献下さいました。そして第6回日本組織適合性学会（平

成9年）を主催して下さり、先生の恩師であられるTerasaki教授をお招きしての特別講演をはじめ、HLA分子の基本的な生物学的意義から医学・人類遺伝学的視点までの幅広い領域の知見を集めた素晴らしい会でした。

又、学会第1日目の会員懇親会では陸上自衛隊中央音楽隊による素晴らしい演奏を聴かせていただきました。その席上、防衛医科大学を退官されたので、米国にわたり、新天地を開拓することを、奥様、お嬢様、御孫様に囲まれて楽しそうに話しておられました。

先生の突然の訃報は、只々驚愕を与えるのみです。

ここに、これまでの日本組織適合性学会へのご貢献に感謝申し上げ、在りし日の姿を偲び、心から御冥福をお祈り申し上げます。

平成10年4月



第2回日本組織適合性学会大会（平成5年、旭川於）懇親会での関口進先生。
左隣は池田久寛先生（旭川医大、臨床検査医学）

関口 進先生を偲んで

吉田 孝人

浜松医科大学、名誉教授、昭和大学、医学部、客員教授

1. グレイのズボンに紺のブレザー

米国より帰国なさった先生に日本組織適合性研究会で紹介され、慶應義塾大学のご出身であることが一目で分かりました。

シアトルのワシントン大学へ、フルブライト留学生として学ばれ、アメリカ、カナダでご活躍、帰路 HLA のメッカ、Los Angeles の Prof. Paul I. Terasaki (UCLA) のところで HLA について学んでこられたところでした。

見るからに慶應ボーイに磨きがかかるかかったという感じでした。物腰は柔らかく、しかし一本筋の通った、理論整然としておられたことを思い出しています。

2. 蝶ネクタイの似合う先生

ベージュのネクタイから時々蝶ネクタイへと切り替え始められたのは何時頃であったでしょうか。

防衛大学校教授にご榮転なさってから、時々蝶ネクタイにグレイの上下の背広姿で会に出かけて来られた。言葉の使い方もだんだんと防衛大学校らしく、簡潔で明瞭、重みと強さを感じさせるようになり、蝶ネクタイが益々お似合いになりました。

そのころ、私達は20年も続いた日本組織適合性研究会を学会に換えていく会議を頻繁に六本木の文化会館で持ちました。関口先生が文化会館の会員であつたので、室を予約して下さり、私など浜松から、よちよち通つたものです。もう一昔、約10年も前のことになります。先生は何時も早目に来られていて、室を準備して下さいました。準備委員（秋山、赤座、柏木、関口、辻、吉田）は評議員会で選ばれました。討議の末、他の会の発足に経験がある柏木先生が会則（案）を作成、これについてよく討議しました。先生は何時も、どちらかというと結論的な発言が多かったかと覚えています。遅くなつた時は、

食堂も利用させて頂きました。入り口に大きな桜の木のある、美しいお庭付き文化会館で、我々の学会の準備は出来上がつたのでした。現在のものは、マイナーな手直しをしたものの大筋は変わっておりません。

あのロビーでニコニコと迎えて下さった関口先生の蝶ネクタイ姿も既に思い出になつてしましました。

3. 20世紀を駆け抜けるはずだったのに

昨年3月のご退官の翌4月、第6回日本組織適合性学会を主催なされました。

先生の歩んで来られたものを背景に、次の時代に期待を寄せてのご企画、私もシンポジウムの司会にひっぱりだされ、又 Prof. Terasaki の特別講演、ワークショップなどもあって HLA 研究の過去、現在、未来を展望するよい機会を与えられました。いよいよ DNA タイピングの時代に入り、HLA に関するヒトの機能が見直される時代に入りました。

それに加えて、懇親会では防衛大学校吹奏楽団の演奏、テラサキ先生とそのご家族、関口先生のお孫さんも含めてのご家族参加、大々盛会利がありました。ご退官数年前、大病をなさつて入退院を繰り返しておられたので、心配しておりましたが、退官と学会をすんなりと乗り切られ、夏には、米国で開業なさるご長男のところで小児科をやると張切つておられたので安心していました。近年にない晴れ晴れしいお顔でお元気でした。

第6回の学会に辻先生がご事情あり、出席出来なかつたので、辻先生の時間の作れる日時で、横浜で、近い人が集まつて送別会をしましようということになりました。

関口ご夫妻を囲んで辻ご夫妻、柏木ご夫妻、私達

夫妻と4組で、夢を語らい、過ぎし日を思い、一年後には又横浜か、コネチカットの先生のオフィスで再会しましょうと楽しい一晩を過ごしました。今になってみるとあの時が最後になってしましました。残念でなりません。柏木先生は関口先生と一緒にご退職、辻先生はこの3月ご退職、秋山先生は数年前にご退官、私は二年前に退官と20世紀後半をそれぞれにHLAと出会い、学び、研究し、助け合い、励まし合ってきた仲間でした。個性豊かな先生たちです。同年輩の十字先生なども含めて20世紀を駆け抜けるはずだったのに、21世紀になって赤座先生たち次世代を担っている先生たちと、愉快に語るはずだったのに、と思うと一人欠けたのは残念でなりません。

先生、安らかにお休み下さい。本当にご苦労様でした。天国より私達全会員を見守り、励ましていて下さい。ご冥福をお祈りいたしております。

(1998年4月5日記す)

